



「良書ご案内」

書籍名	一万円選書	著者名	岩田 徹
出版社名	ポプラ新書	発行年月	2021年 12月

私の両親は、大阪市阿倍野区で小さな本屋を長く経営していた。店売りだけでは経営は難しく、近所の理髪店、美容院、喫茶店等への配達でかろうじて生活している状態だった。ターミナル駅に次々と出店する大型書店に駆逐され、私が大学を卒業し就職活動をする頃には廃業を決意していた。

本屋業は立地、豊富な品揃え、新刊書の仕入力が勝負だ。町の小さな本屋はドンドン淘汰されていった。

岩田は38歳で父親から「いわた書店」の経営を引き継いだ。本書は北海道佐川市の小さな本屋が起こした奇跡の物語です。

北国でも町の小さな本屋という、ご近所をターゲットとしたビジネスモデルが時代遅れになっていた。窮状を知った高校の先輩が「これで俺に合う面白そうな本を見繕ってほしい」と言って1万円札を差し出した。

「俺みたいなやつが100人いたら本屋の経営も安定する」とのアドバイスをもらった。

2007年から「一万円選書」を始める。読者は1人1人違う。1万円の予算で読者1人1人に合った本を選ぶといったビジネスだ。当初7年間は鳴かず飛ばずの状態だったが、テレビの深夜番組から取材依頼があり、放送3日後から申し込みが殺到する。過去7年間で選書した人は1万人を超えた。

読者が求めている本を見つける手がかりは、依頼者が書く「選書カルテ」にあった。

「これまでに読まれた本で印象に残っている20冊を教えてください。」

「これまでの人生で嬉しかったこと、苦しかったことは？」とカルテの間診は続く。

選書カルテからその人の価値観、その価値観をかたちづかったものが浮かび上がってくる。履歴書よりもその人がわかる。

「人は自分の物語を生きる」とは、亡くなられた河合隼雄先生の言葉。私たちは自分の物語を生きている。読書は登場人物の物語を読む。その人の物語(人生)を知ること、自分の物語を豊かにしてくれる。時には勇気を与えてくれ、支えてもくれる。そのような出会いを私たちは読書から求めている。

岩田が選ぶ本を何冊か読んでみた。その中で私が面白いと思ったものを2冊紹介する。

「カーテンコール」 加納朋子 新潮文庫 2020年

「楽園のカンヴァス」 原田マハ 新潮文庫 2014年

岩城

3月に入り少し暖かい日が増えてきました。こちらでは、お水取りが終わると春が来ると言われます。お水取りは奈良東大寺二月堂で行われる、修二会(しゅにえ)という一仏教行事を指します。目的は去年1年間の罪や穢れを祓いおとし、この先1年間の国の安全・発展や国民の幸福を神仏に祈ることにあります。前行と本行からなり、前行は2月12日から2月末日まで、本行は3月1日から15日まで。なぜお水取りというのか？3月12日深夜に二月堂下の若狭井から香水を汲みあげる神事から。この後に皆の知る「お松明」が続きます。始まりは752年というから、1270年も前から絶えることなく続けられてきたということに驚き、まさに今、平和の尊さを実感する今日この頃です。

発行所：株式会社ライフデザイン研究所 所在地：〒541-0048 大阪市中央区瓦町3-4-87サビビル2F

Tel 06-4708-6844 Fax 06-4708-7067

編集人 伊藤